

## 高校入試志願状況など

### 1 高校入試

福島県の県立高校入試の発表が16日にあった。今回から入試制度が変わり、いわゆる推薦的選抜がなくなり、3月4日に、前期選抜と称して全員受験する方式となった。

相馬地区の高校は、相馬、相馬東、原町、相馬農業、小高産業技術、新地の6校である。

母校相馬高校の定員は、2年前から1クラス減り、現在普通科3クラス（120名）、理数科1クラス（40名）の計160名である。2月下旬の志願状況で、両学科とも定員に満たなかった。

この地区は、全国的な少子化ばかりではなく、東日本大震災と原発事故による影響での生徒減少が、じわじわと確実に現れている。

新聞発表の数字で見ると、相馬地区6校全体の募集定員は920名であるが、前期選抜後の空きが実に203名分もある。現在、後期選抜、いわゆる再募集が、6校全てで行われている。

寂しい限りであるが、これが、故郷、相馬地方の現実である。

### 2 常磐線再開

大震災、原発事故から9年も経って、3月14日、ようやく、常磐線が全線開通した。喜ぶべきことではある。ただ、都市部に比べて復旧のスピードは非常に遅い。公式発表とは裏腹に、双葉地区の原発事故の影響の深刻さをも感じてしまう遅さである。

昔と単純な比較はできないかもしれないが、昭和20（1945）年、8月、広島が悲慘な原爆禍によって廃墟となった。しかし、5年も経たない昭和25（1950）年、プロ野球が現在のように2リーグ制が始まると同時に、広島に市民球団、広島カープが誕生しているのである。

かつて、相馬高校の前身、福島県第四尋常中学校が創立された年、明治31（1898）年が、常磐線が日暮里から岩沼まで全線開通した年であり、奇しくも、常磐線全通の歴史と母校の歴史とはスタートが同じなのであった。

明治34年には、福島県立相馬中学校と改称、相馬地方に一つだった相馬中学校に、全通した常磐線によって双葉地方など広域から多くの俊英が通学できたものと想像している。

（3月19日 村山記）